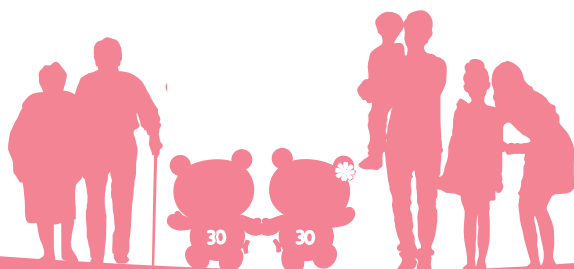


このまちの、魅力とくらしを語り合っています

第 5 期 宮 前 区 区 民 会 議

# 提 案 書

平成 2 8 年 3 月 9 日



第5期宮前区区民会議



## 第5期宮前区区民会議 提案書 もくじ

1 はじめに

### **2 誰もがくらしやすいまちをめざす部会**

2 部会の提案「ほっとやすらぎステーションを拡げよう」

3 具体的な取り組みの提案内容

4 課題の把握と、取り組みの方向性

5 提案の実現に向けた、今後の課題

6 提案までの経緯（2年間の活動を振り返って）

### **8 みやまえ魅力探訪部会**

8 部会の提案「まちのあらゆる情報の集約・発信拠点、“みやまえ魅力探訪ネットワーク”の構築」

9 具体的な取り組みの提案内容

10 課題の把握と、取り組みの方向性

11 提案の実現に向けた、今後の課題

12 提案までの経緯（2年間の活動を振り返って）

### **14 今後の区民会議への継続的な課題**



## はじめに



区民会議がスタートしてから10年。この10年間の宮前区区民会議からは、委員による活発な議論、調査活動などから、さまざまな提案がされ、そして実践されてきました。

第5期となるわたしたち20名も、よりくらしやすい地域社会をつくるために何をすべきかを考えながら、議論を交わしてきました。その結果が、きょう提出するこの「提案書」です。

第5期宮前区区民会議では、スタート当初からまちの課題について意見を交換し、審議するテーマを2つの方向に決定しました。そして、誰もが住み慣れたまちで、いつまでも元気に暮らし続けることができる社会をつくることをテーマとした「誰もがくらしやすいまちをめざす部会」、宮前区の魅力的な地域資源を、地元のひとにはもちろん、区外、市外から訪れる方にも知ってもらえるための情報発信手段をテーマとした「みやまえ魅力探訪部会」の2つの専門部会を起ち上げました。

どちらの専門部会も、この2年間の活動の成果である「地域の課題解決に資する提案」を、より確かに、実現性、実効性のあるものにしていきたいという思いから、できる限り私たち自身で取り組みを実行し、今後のために検証することをたいせつにしてきました。

審議のほか、積極的に現地に出向き、自分たちで調べ、地域の方々の協力や助言をいただきながら、試行的な取り組みの実施を検討し、その結果から、「稗原ゆ〜ず連絡会」「ほっとやすらぎステーション」「みやまえ魅力スポット・寄ってこ！ガイド」「みやまえハテナノタネ・自由研究のMe!」という取り組みを実施してきました。このうちのいくつかは、すでに地域の方々に活用いただいたり、訪れたりしていただいています。

わたしたち第5期の活動は、まもなく終わります。しかし、わたしたちが進めてきた取り組みが地域に根付いていくには、今後も継続、発展が必要です。わたしたちは、その任期が終わっても、それぞれの地域活動を通じて、また地域の方々や行政、企業などとも連携しながら、取り組みの継承に努め、区民会議の目的である「よりくらしやすい地域社会をつくる」ことを目指していきたいと考えています。

第5期宮前区区民会議  
委員長 宮崎 孝

誰もがくらしやすいまちをめざす部会の提案

# ほっとやすらぎステーションを拡げよう

地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが、

川崎市でも本格的にスタートします。

“誰もが住み慣れた地域、本人が望むところで、安心して暮らし続けられるまち”

このテーマは、くらし部会の発足当初から、一貫して持ち続けてきました。

さらに、こうした社会を実現するためにはどうしたらよいかを、

さまざまな事例の研究や当事者からのヒアリングなどを通じて、検討してきました。

わたしたちは、「宮前区らしい地域包括ケアシステム」が、

しっかりと機能し、より住みやすい地域社会になるために、

わたしたちの取り組み「ほっとやすらぎステーション」を、

区内各地に拡げていくことを、提案します。

誰もがくらしやすいまちをめざす部会

部会長 川畑 武敏

## ● 宮前区らしい「地域包括ケアシステム」とは

可能な限り住み慣れたまちで、本人が望むところで住み続けられる社会を目指して、医療機関、介護事業者、行政のほか、地域社会も一体となって取り組むものが、「地域包括ケアシステム」です。

国や他の自治体が進める地域包括ケアシステムは高齢者が対象の中心ですが、川崎市ではこれに子ども、障がい者、子育て中の世帯など、あらゆる「ケアを必要とするひと」を対象にしています。

宮前区らしい「地域包括ケアシステム」は、地域活動が活発な特性を活かして、地域が主体となり、官民が連携して作り上げていくものとして、私たちは考えています。

## ● ほっとやすらぎステーションのおもな役割、機能

ほっとやすらぎステーションは、くらし部会が考えた、宮前区らしい「地域包括ケアシステム」のひとつのかたちです。同じ宮前区内でも、地域によって特性が異なりますが、それぞれの地域に合わせた「居場所」をつくり、誰もが気軽に集い、支え合える拠点となるように考えたシステムです。

ほっとやすらぎステーションの特長

- ① 地域住民の出会い、交流、憩い、活動の場
- ② 福祉・医療などの相談、見守り、つながりの機能（地域包括ケア）
- ③ 地域に広く知られて、誰でも、いつでも気軽に立ち寄れる雰囲気
- ④ 地域の、地域による、地域のための場所



## ほっとやすらぎステーションを拡げましょう

馬絹のレストランで試行的に実施している「ほっとやすらぎステーション」の取り組みを、区内各地に展開していきたいと考えています。

「ほっとやすらぎステーション」は、コミュニティカフェの役割も持っていますが、店舗を一からつくるものではありません。既存の店舗などに次の2点について協力をお願いするだけで「地域の居場所」になるのです。

- ① お店のテーブルやカウンターなどに、「カード」のスタンドを設置
- ② 地域包括支援センターと連携し、相談ごとがあれば、センターへつなぐ

今回の試行的取り組みではレストランと連携しましたが、くらし部会では、飲食店だけでなく、例えば「**理容・美容院**」、「**クリーニング店**」のように**お店とお客様との会話がある場所**、「**整骨院**」、「**薬局**」のように**お客様のようすがわかる場所**なども候補になると考えています。

取り組みの本格実施にあたっては、各地区の地域包括支援センターはもちろんのこと、町内会・自治会や商店会の協力は欠かせません。

また、ただ増やすだけでなく、例えば「認定制度」を設け、この取り組みや福祉の現状などの基礎知識を習得していただくための「講習会」を開催することなどが必要になるかもしれません。

この取り組みにより、「**宮前区内ならどこでも、誰でも、困ったときに立ち寄れる場所がある**」という環境を作り上げられることが、わたしたちの理想です。



カフェのテーブルに置いた相談カードのスタンド



手に取りやすいポップなデザインに



## 稗原ゆ〜ず連絡会の運営支援と他地域への展開

稗原ゆ〜ず連絡会は、地域の7つの自治会と福祉施設・教育機関・医療機関等から代表が集まって結成されました。前述の「ほっとやすらぎステーション」のひとつのかたちでもあります。

連絡会では、健康講座や各種イベントを開催し、地域の多くの方が楽しく参加しています。小さな地域での活動らしく、通り一遍の講座内容ではなく、参加される方に合わせてその場で作られるプログラムを実践しています（5ページ参照）。

これまで地域活動に出る機会がなかった方も、健康に少し心配のある方も、いろいろな方が気軽に参加できる企画は、この地域に根付き始めています。

また、この地域以外でも、いろいろな場所で、見守り活動やサロン活動などが動き出そうとしています。動き出すまで、あと一歩のところもあるでしょう。そうした「あと一歩」を手助けして、支え合いの活動が広がっていく地域社会にしていきたいと思えます。**そのための支援を、地域住民、各種団体、そして行政が手を取りあって行い、活動のバックアップができる関係をつくっていききたいと、考えています。**



連絡会の活動拠点「ユーズカフェ」オープン記念

**稗原ゆ〜ず連絡会会員**：稗原自治会、市営鷲ヶ峰住宅自治会、鷲ヶ峰西住宅自治会、菅生ヶ丘自治会、稗原団地自治会、一の丸自治会、菅生台自治会、鷲ヶ峰地域包括支援センター、介護老人福祉施設鷲ヶ峰障がい者支援施設みずさわ、かわさき記念病院、はぐるま工房、鷲ヶ峰いこいの家、川崎市立稗原小学校



## 課題の把握と、取り組みの方向性

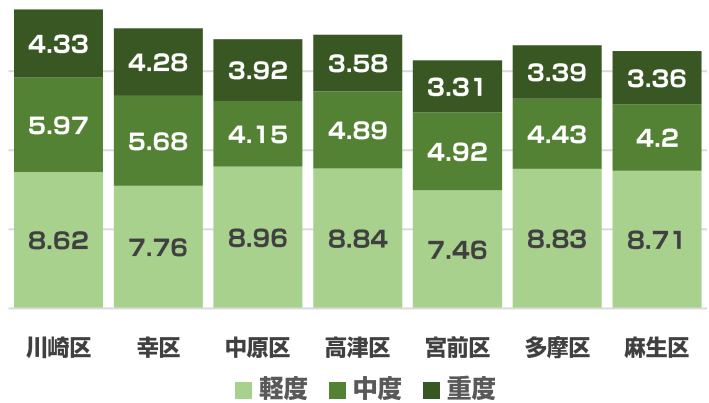
### 高齢化が進む現状——

わたしたちは、部会発足当初は、「(仮称) 高齢者問題に関する取り組みの部会」という部会名で活動をしていました。

みなさんもお存じのとおり、急速な高齢化が社会問題となっています。川崎市は高齢化率が全国平均と比べ低いといわれていますが、今後は高齢化が進むと予想されており、例外ではありません。一方で、宮前区は男性の平均寿命が全国第2位であったり、65歳以上の要介護認定率が市内7区で最も低かったりといったデータも。

また、「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みが本格的にスタートします。宮前区も、宮前区らしい地域包括ケアシステムの構築に向けて動き出しています。

### 65歳以上の要介護認定率



川崎市介護保険運営協議会資料(平成27年4月)

### わたしたちが目指す取り組みの方向性——

このような背景から、わたしたちは、「元気な高齢者がより元気に暮らすことができ、互いに支え合えるまちをつくる」ことをテーマに掲げました。そして、交流の場、支え合いの場として「コミュニティカフェ」に着目しました。

市内のいくつかのコミュニティカフェを実際に訪問し話を聞いたり、全国各地の先進的な取り組みを調査したりしながら、宮前区にふさわしいコミュニティカフェのかたちを考えてきました。それを、わたしたちは「地域の居場所」と名付け、誰もが気軽に立ち寄れて、情報交換ができ、福祉や医療の専門機関へのつなぎ役もできる場所と定義しました。同時に、「地域の居場所」の候補地を選定し、現地視察や関係者からのヒアリングを重ねてきました。



①病院内で開催される潮見台カフェ



②三田まもりカフェ



③カフェ内の地域情報掲示板

### くらし部会の提案に向けて——

「地域の居場所」づくりの取り組みによりスタートしたのが、「ほっとやすらぎステーション」です。このモデルとして、稗原地区に新規にオープンするコミュニティカフェを拠点とした「稗原ゆ〜ず連絡会」と、馬絹地区のレストランで、試行的にいくつかの取り組みを進めてきました。

それぞれの取り組みは、ごく小さな「地域包括ケアシステム」の一つのかたちです。地域活動が活発な宮前区らしい「地域包括ケアシステム」というのは、こうした小さな積み重ねが作りだす社会にあると思っています。わたしたちは、この小さな積み重ねを続けていくことにより、「誰もが住み慣れた地域、本人が望むところで、安心して暮らし続けられるまち」が実現していくものと考え、提案に至りました。



## 提案の実現に向けた、今後の課題

### 稗原ゆ〜ず連絡会の運営支援

稗原ゆ〜ず連絡会は、川崎市社会福祉協議会からの助成金と、加盟団体からの賛助金、出張カフェ売り上げなどにより運営しています。また、講師やカフェスタッフなどは原則ボランティアで、会場確保なども加盟団体が行っています。行政からは①広報活動、②保健福祉関連情報の提供・情報共有、③区民会議委員による運営のバックアップなどの支援が行われています。

今後もずっと活動を続けていくことを考えると、独立して運営していくことが望ましいですが、例えば保健福祉情報の提供などについては、行政との連携は不可欠です。このような連携を今後も続けながら、ともに「不安のない暮らしができる地域社会」をつくっていく体制が必要です。

### ほっとやすらぎステーションの拡張

ほっとやすらぎステーションの候補としていくつかのお店を考えましたが、この活動を拡げていくために必要なのは、地域の理解です。対象店を増やしていくために、商店街や店舗、町内会・自治会などの協力を得る必要があります。

### 講習会の開催や認定制度の検討

ほっとやすらぎステーションの拡充にあわせて、協力店などに地域福祉の現状や各種保健福祉制度などの知識をもってもらう機会として、定期的な講習会の開催が考えられます。会場に集まって講習会をするのが難しければ、テキストの配布など、それに代わることも検討できます。これにあわせて、一定の基準をつくり、「ほっとやすらぎステーション」としての認定をすることなども、検討が必要です。

### さまざまなかたちの「地域の居場所」づくり

カフェや商店街で「ほっとやすらぎステーション」を拡張する一方で、さまざまなケアが必要な人たちの憩いや交流ができるようにするために、他のかたちでの「地域の居場所」をつくる必要もあります。

自治会などが中心になって開かれている「認知症カフェ」がその代表例ですが、月1回程度の開催が多いのが現状です。くらし部会が考える「いつでも気軽に立ち寄れる場所」(2ページ参照)であるために、例えば、空き家や空き店舗などを、地域の運営主体が安価で使いやすくてできるような仕組みを検討することが必要であると考えています。

### 稗原ゆ〜ず連絡会が取り組んできたこと

稗原ゆ〜ず連絡会は、27年6月の発足当初から、地域密着の各種講座やイベントを数多く実施してきました。今後の同様の活動への参考となるように、その一部をご紹介します。

■健康講座①「健康でいるためのコツ教えます」…地域の各自治会館などで開催。元保健師を講師に招き、当日の参加者の年齢や体調などを判断し、その場にあわせた体操などを行いました。

■健康講座②「認知症あれこれ・聞いて話して」…認知症専門家と、家族を介護した経験のある方による討論会で、全2回開催しました。経験談から、今後のケアにつながる話し合いができました。

■健康推進チーム結成&健康づくり教室シリーズ…理学療法士、看護師、介護士など、医療・福祉の専門家チームを結成。今後定期的に、稗原地域で講座活動をしていきます。

■男の料理入門…家族が不安なく過ごすために、男性も家事が必須！連絡会役員自ら講師を務めます。

■ボランティア募集(ひえボラCTT)…地域で募集するボランティア情報を集約し、希望者を登録制にして、お手伝いしてほしい人と、したい人のつなぎ役をします。ポイントカードも導入しました。



健康講座①

## 提案までの経緯（2年間の活動を振り返って）

### 26.9.2 第1回高齢者問題に関する取り組みの部会

- ・暮らし部会の前身となる部会が9名の委員で発足
- ・これから急速に進む高齢化に対応できるまちづくりが必要と考え、議論をスタート

### 26.10.14 第2回高齢者問題に関する取り組みの部会

- ・地域包括ケアシステムについての勉強会を開催

### 26.11.13 第3回高齢者問題に関する取り組みの部会

- ・地域包括ケアの実現を見据えた先進事例を調査し、実際に現地に訪れることを決定

### 26.12.3～17 地域の見守り活動・サロン活動の現地視察会

- ・「土橋カフェ」「かわさき記念病院」「潮見台カフェ」「三田まちもりカフェ」「すずの家」を訪問
- ・先進的な取り組みを実施している現場で、運営をしている方々にお話を伺った

### 27.3.4 地域包括支援センター連絡会議への出席

- ・高齢者部会の取り組みと区民会議フォーラム開催を周知

### 27.3.15 みやまえ区民会議フォーラム2015

- ・模擬コミュニティカフェを開催
- ・いつまでも暮らし続けられる地域社会について、テーブルトーク
- ・部会名を「誰もがぐらしやすいまちをめざす部会」に正式決定



フォーラム全体会

### 27.4.21 第4回誰もがぐらしやすいまちをめざす部会

### 27.5.26 第5回誰もがぐらしやすいまちをめざす部会

- ・暮らし部会が取り組む「地域の居場所」について具体的な議論
- ・稗原地区を中心とした居場所づくりと、既存のカフェを活用した拠点づくりの検討を開始

### 27.6.12 第1回稗原ゆ～ず連絡会

- ・稗原地区7自治会と地域の福祉・医療・教育施設が集まり結成
- ・誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らし続けられる地域を目指す社会の構築が目標
- ・菅生ヶ丘に新しくオープンするカフェをこの連絡会の拠点とした

### 27.7.6 第6回誰もがぐらしやすいまちをめざす部会

- ・暮らし部会が考える「地域の居場所」を定義（4ページ参照）
- ・現地視察し、現状を把握し、地域の居場所創設の可能性を探ることとした

### 27.7.10 第2回稗原ゆ～ず連絡会

### 27.7.17 地域の居場所候補地の視察（白幡台いこいの家）

- ・運営者に施設の現状を伺った
- ・利用頻度が高く、「地域の居場所」として定期的な会場の確保が難しいこと、時間外の利用が難しいことなどから、今の段階では見送ることとした

### 27.8.24 地域の居場所候補地の視察（Cafetime マギヌ）

- ・馬絹地区でオープンしたカフェを訪問
- ・地域活動に関心のあるオーナーの協力により「ほっとやすらぎステーション」の取り組み実施を決定

### 27.8.31 第7回誰もがくらしやすいまちをめざす部会

- ・「稗原ゆ～ず連絡会」「ほっとやすらぎステーション」の2つを取り組みモデルとした

### 27.9.4 第3回稗原ゆ～ず連絡会

- ・連絡会が主催する各種健康講座を企画

### 27.10.5 ユーズカフェオープニングセレモニー

- ・連絡会の活動拠点となる「ユーズカフェ」のオープンを記念してセレモニーを開催

### 27.10.16 第8回誰もがくらしやすいまちをめざす部会

### 27.11.3 地域包括ケアシンポジウム構築に向けた宮前区民シンポジウム

- ・川田副委員長がパネリストとして参加。会場には、くらし部会を紹介するブースを設置

### 27.11.16 ほっとやすらぎステーション打ち合わせ会

- ・宮前平地域包括支援センターの職員も参加し、現地で顔合わせを実施
- ・試行実施に向けて話し合い

### 27.11.27 第4回稗原ゆ～ず連絡会

### 28.1.13 ほっとやすらぎステーション第2回打ち合わせ

### 28.1.25 第5回稗原ゆ～ず連絡会

- ・地域の一般の方も招き、川崎マリエンで開催、活動を理解していただいた
- ・「川崎港魅力体験クルーズ」も同時開催し、「かわさきの魅力」を体感

### 28.1.25 第9回誰もがくらしやすいまちをめざす部会

- ・2年間最後となる部会
- ・くらし部会が最終的にまとめる提案について議論

### 28.2.26 ほっとやすらぎステーションでのイベント開催

- ・ボランティアで音楽活動をされる方を招き、コンサートを開催
- ・地域包括支援センターも参加いただき、参加者に同センターを紹介、気軽に相談できることを周知



Cafetime マギヌで  
関係者打ち合わせ会



巡視船「あおぞら」の前で  
連絡会一同の記念撮影

# まちのあらゆる情報集約・発信拠点、 “みやまえ魅力探訪ネットワーク”の構築

地域で積極的に活動をしているひと。

自分のまちが大好きで、素晴らしさをもっと知ってもらいたいと思うひと。

こどもたちに、まちの歴史にふれあってほしいと思うひとと、そのこどもたち。

ちょっと通りがかりに、面白いものを探しているひと。

さまざまな地域情報のみなもとは、すべて「ひと」です。

その「ひと」たちが手を取りあい、

より広く、わかりやすく、伝わりやすい情報を発信する。

これが、わたしたちが考える「みやまえ魅力探訪ネットワーク」です。

みやまえ魅力探訪部会

部会長 青柳 和美

## ● みやまえ魅力探訪ネットワークについて

インターネットや携帯端末の普及により、いつでもどこでも、瞬時に世界中の情報を手に入れられる社会です。一方で、情報はあふれかえり、本当に欲しい情報をいかにして手に入れるかが課題となります。

「みやまえ魅力探訪ネットワーク」は、地域でさまざまな情報を持っている「ひと」と、いろいろな取り組みを進める地域活動団体の「ひと」が手を結び、SNS、行政刊行物、各種メディアをはじめ、あらゆる情報発信手段を集約し、発信するしくみのことです。

しかし、新規に組織を起ち上げるわけではありません。組織づくりを目標にしてしまうと、その役割もあいまいになり、継続も困難になりがちです。

「みやまえ魅力探訪ネットワーク」ではまず、わたしたち魅力探訪部会委員がメインとなって、今回提案した2つの試行的取り組みの応用・発展を担い、それを実現させていくことから始めます。そうした活動を積み重ねていくことで、将来、わたしたちが理想とするはたらきをもつ組織となればと考えています。当初の活動にあたっては、第3期区民会議提案で結成した「みやまえ情報ラボ」と協力しながら進めていくことも考えられます。

さまざまな「ひと」のノウハウとネットワークを活用して、地域の魅力を、もっともっと、たくさんの「ひと」に伝えていきたいと、私たちは思います。

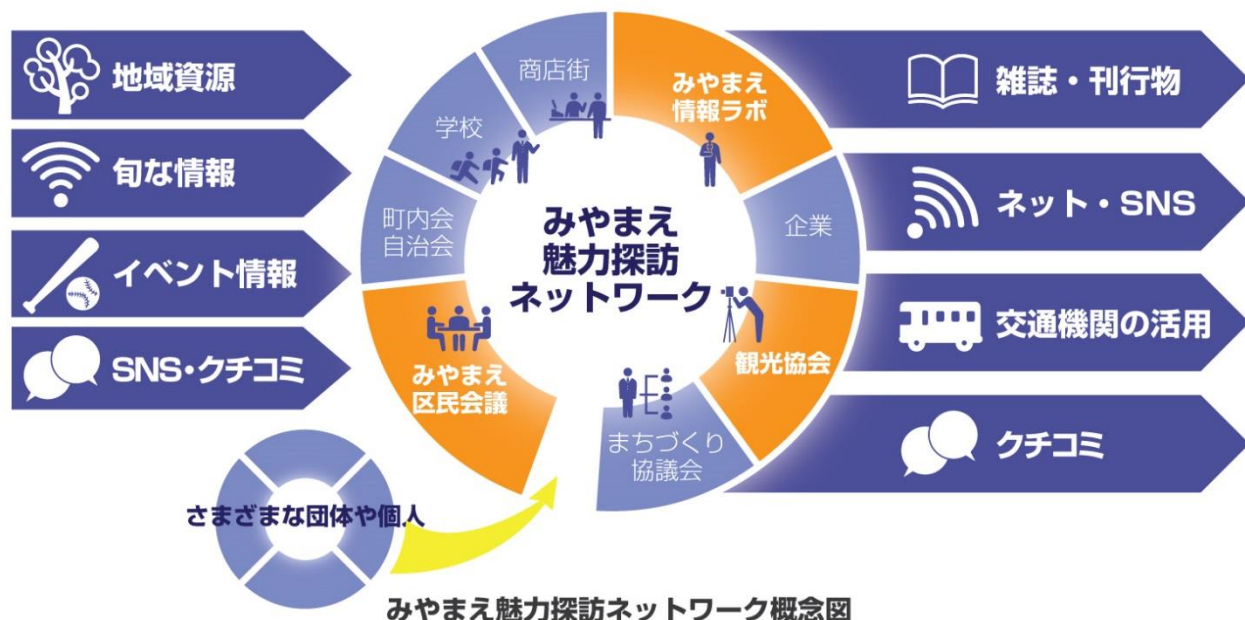




# 具体的な取り組みの提案内容



## みやまえ魅力探訪ネットワークと、その活動内容



さまざまな地域の情報を集約して、ネットワークで共有し、効果的な発信方法でひろく伝えていくイメージを表しています。このネットワークは、みやまえ区民会議、みやまえ情報ラボが中心となりますが、宮前区観光協会をはじめとした各機関が連携する姿が理想です。



- みやまえ魅力スポット・寄ってこ！ガイドは、これまで6カ所につくりましたが、宮前区にはまだまだたくさんの魅力スポットがあります。理想は、すべてのバス停にガイドがあることです。この取り組みの今後の展開としては、

  - ①宮前区内に限らず、市全体に広げていく
  - ②民間バス事業者のバス停にも展開
  - ③アプリを開発し、さらに機能を充実
  - ④環境問題、健康管理などの要素を盛り込む

- といったことが考えられます。

- みやまえハテナノタネ・自由研究のMe! は、第1弾として「みやまえ6つの謎編」を作りましたが、今後も楽しいシリーズの発行が考えられます。ハテナノタネの最大の特長は、地域の人と触れ合うことができることです。活動を続ける多くの方を発掘して、地域の資源を研究していけば、もっとよいものができるに違いありません。



- 案内標識や表示板も、場所によって設置を検討していきます。観光スポットに訪れたときは、写真を撮ります。そのとき、それがどこなのがひと目でわかる標識があれば、よい思い出になります。標識設置にあたっては、統一感のあるデザイン、維持管理方法などを検討したうえで進めていく必要があると考えています。

## 課題の把握と、取り組みの方向性

### いまを語り、未来を語る——

わたしたちは、部会発足当初は、「(仮称)魅力発信と次世代まちづくりの部会」という部会名で活動を開始しました。まずは「いまを語り、未来を語る」というテーマでワールドカフェ形式のワークショップを開催、委員からさまざまな意見が出されました。

宮前区には歴史、自然、文化などさまざまな地域資源があります。地元の人に古くから親しまれているものもあれば、知る人ぞ知るようなところもあり、区外・市外のひとにもぜひ知ってもらいたい資源もたくさんです。これは、部会が実施したバスツアーを通じて実感しました。

地域資源の魅力発信は、これまでも取り組まれてきました。たとえば過去の区民会議提案である「ぐるっとみやまえ」「坂道ウォーク」「みやまえカルタ」など。いずれも素晴らしい取り組みですが、これらはおもに区内のひとに向けたものです。

子どもたちが地域資源にふれる機会をつくることも大切です。既存の刊行物や看板にはない、子どもたちが積極的に手にとって興味を持つようなものをつくりたいと考えました。これは、自分のまちに愛着を持ってもらい、ひいては将来もずっと住み続けたいくなるような魅力あるまちにしていくことに、目的があるのです。



路線バスツアーのワンシーン。写真右は“知る人ぞ知る”歴史的魅力スポットのひとつ、「陸軍境界標柱」。区内には複数点在する。

### わたしたちが目指す取り組みの方向性——

わたしたちは、「もっと区外のひとにも、地域資源を知ってもらい、訪れてもらいたい」という思いと、「子どもたちが興味を持ち、地域資源にふれあえる機会をつくりたい」という思いから、議論を進めてきました。議論の一方で、バスツアーの実施や、WEBによる観光情報発信なども体験して、①地域観光情報投稿サイトの活用、②バス停を活用した地域資源への案内、③親子をターゲットにした地域資源体験資料の作成、の3つの取り組みを試験的に実施することを考えました。

取り組みの実施にあたっては、「拡大部会」を開催し、地域の方々からさまざまな意見をいただきました。その結果からうまれて、今日までに試行的取り組みを実施してきたのが、「みやまえ魅力スポット寄ってこ！ガイド」と、「みやまえハテナノタネ・自由研究のMe!」です。



魅力探訪拡大部会

### 魅力探訪部会の提案に向けて——

拡大部会開催後から試行的取り組みの検討・製作・試験運用開始を行ってきましたが、魅力探訪部会の本来の目標は、こうした取り組みの実行ではありません。地域のひとが自分のまちを好きになるような、遠くからでも訪れたくなるような、地域資源の魅力発信が、わたしたちの目標です。ここから、「みやまえ魅力探訪ネットワーク」の概念を考えました。

## 提案の実現に向けた、今後の課題

### みやまえ魅力探訪ネットワークの核となるのは…

宮前区の情報発信を集約する「みやまえ魅力探訪ネットワーク」構想の中心的機能をどのような組織が担うかが課題です。

みやまえ魅力探訪部会では、この中心的役割を、「みやまえ情報ラボ」に担ってほしいと思っています。「みやまえ情報ラボ」は、地域の魅力を自ら取材し、編集して発信する組織として、第3期宮前区区民会議の提案を受けて発足しました。みやまえ情報ラボメンバーは、情報記者としての講習を受け、区役所が刊行する転入者向け情報紙「ぐるっとみやまえ」のほか、WEB版ぐるっとみやまえ、SNSなどで情報発信を行っています。

「まだ地域をよく知らない人に、魅力を知ってもらいたい」、という思いから情報発信に携わる「みやまえ情報ラボ」と、わたしたち魅力探訪部会がもつ、地域情報発信への思いは同じものです。

さらに、観光情報発信のエキスパートである宮前区観光協会、そしてわたしたち魅力探訪部会委員（OB委員も含む）が手を組んで、ネットワークをまとめていくのが、理想です。

### それぞれの試行的取り組みを継続するために

わたしたちがつくった2つの試行的取り組みは、今回限りで終わらせてしまうのではなく、継続した取り組みが求められるものです。

### みやまえ魅力スポット寄ってこ！ガイド

この取り組みについては、他のバス停への拡充と、高機能・多機能化が課題となります。

まず、バス停の拡充となると、①各スポットの選定、②詳細な視察とルート設定、③バス事業者への掲示許可申請、④WEB掲載、⑤情報の管理、といったステップが必要となります。市バスのみでなく、民間バス事業者への展開も必要となってきます。

つづいて高機能化・多機能化ですが、WEBベースでの製作段階では、①よりわかりやすい写真の掲載、②別ルートへの案内、③バリアフリー情報の付加（トイレの有無、車いす移動の場合など）、④動画による現地ガイド、⑤目的地から次のスポットへの案内、⑥帰り道案内、などが考えられます。

アプリ開発が可能であれば、①リアルタイム音声案内、②交差点ナビゲーション、③ARなどによる現地ガイド、④時刻・天気や利用者の趣向などをもとにした観光案内、⑤帰りのバス時刻案内、⑥徒歩による健康管理などさまざまな可能性があります。

いずれの場合も、労力は相当なものになり、特にアプリ開発には莫大な費用が掛かります。今後は、これを実施する主体や広告の導入、周辺店舗との提携なども視野に入れた将来の展開を考えていく必要があります。実施主体としては「みやまえ魅力探訪ネットワーク」が関わってくるのが理想です。

### みやまえハテナノタネ・自由研究のMe!

今回製作したのは「6つの謎編」だけです。区内にはもっと魅力的、神秘的な地域資源がたくさんあり、またそこで活動するかたがたも大勢いらっしゃいます。そうした資源を積極的に取り上げて、シリーズ化していくことが望まれます。例えば①地名の由来編、②民話・神話編、③歴史編などのほか、一つのスポットに絞って複数の謎を解き明かすものも考えられます。

このリーフレットは、小学生とその保護者に手に取ってもらいたいもの。将来は学校の教材などに活用していくことが理想です。この取り組みにも、「みやまえ魅力探訪ネットワーク」が関わり、実現していくことが望まれます。



## 提案までの経緯（2年間の活動を振り返って）

### 26.9.26 第1回魅力発信と次世代まちづくりの部会

- ・魅力探訪部会の前身となる部会が10名の委員で発足
- ・「いまを語り、未来を語る」をテーマにワールドカフェ形式のワークショップを開催

### 26.10.21 第2回魅力発信と次世代まちづくりの部会

- ・路線バスを活用した魅力探しのツアーを行うことを決定

### 26.11.20 みやまえ路線バス途中下車の旅（コース①）

- ・「みやまえ歴史探訪・タイムスリップ体験」
- ・戦時中の遺跡、古墳や古代の役所跡など

### 26.11.21 みやまえ路線バス途中下車の旅（コース②）

- ・「みやまえを流れる川を辿って」矢上川、平瀬川、水沢の森を巡った

### 26.11.26 みやまえ路線バス途中下車の旅（コース③）

- ・「旅はやっぱり、グルメめぐり」
- 宮前区の名物をつくるスイーツショップやレストランを訪ねた



区民会議が作成したツアーパンフレット

### 26.12.22 第3回魅力発信と次世代まちづくりの部会

- ・3日間のバスツアーの振り返り
- ・魅力発信、魅力発見に大きな可能性を見出した。
- ・区外からも観光に訪れてもらえるような取り組みが必要であることを実感



地元食材をふんだんに使った  
フォーラム特製お弁当

### 27.3.15 みやまえ区民会議フォーラム2015

- ・特別バスツアーを2コース用意
- ・目的地ではその地域で活動する方がガイドを務めた

### 27.5.8 第4回みやまえ魅力探訪部会

- ・「バス停に地域の魅力スポットへの案内表示をつけたらどうか」「子どもの教育、に役立てられるものは作れないか」「観光情報投稿サイト“Holiday”のワークショップをしてはどうか」という意見が出された



特別バスツアーで  
影向寺を見学

### 27.6.12 第5回みやまえ魅力探訪部会

### 27.7.8 第6回みやまえ魅力探訪部会

- ・第4回部会のアイデアを区民と語り合うため、「みやまえ魅力探訪拡大部会」を企画

### 27.8.8 みやまえ魅力探訪拡大部会

- ・区内外に地域の魅力を知ってもらうための取り組みを  
地域の方々を招いて検討するイベントを開催



拡大部会のテーブルトーク

### 27.9.1 第7回みやまえ魅力探訪部会

- ・拡大部会の意見をもとに、これから試行的に取り組む内容を検討
- ・2グループに分かれ「バス停への観光案内掲示」「自由研究に使える地域資源リーフレット」の実現に向けた検討を進めた

## 27.9.30~10.2 バス停と魅力スポット視察会

- ・バス停観光案内掲示を「みやまえ魅力スポット寄ってこ!ガイド」と命名
- ・候補地となるバス停と周辺の魅力スポットを委員が歩いて視察
- ・WEBに掲載する写真の撮影も実施

## 27.10.7 第8回みやまえ魅力探訪部会

- ・2つの試行的取り組みの進捗状況を報告
- ・Bグループの取り組みの名前を「みやまえハテナノタネ」とした

## 27.11.17 みやまえハテナノタネ検討会

- ・Bグループによる取り組みの検討
- ・リーフレットの形式・内容と、記載する地域資源の詳細について地域の協力をいただくことを決めた



バス停ごとに設置の可能性を検討

## 27.11.30 寄ってこ!ガイド公開&公開記念特別企画開催

- ・報道各社を招き、寄ってこ!ガイドのお披露目会を開催
- ・寄ってこ!ガイドを使ったウォーキングイベントを実施
- ・教育委員会の現地ガイド付き「橘樹官衙スタンプラリー特別版」も同時開催



## 28.2.2 寄ってこ!ガイド追加分貼り付け作業

- ・公開当時の2カ所から6カ所に増やすために、各バス停でガイドの貼り付け作業を実施

## 28.2.3 第9回みやまえ魅力探訪部会

- ・2年間最後の部会は、エポックなかはらで開催
- ・みやまえハテナノタネ試作版の内容を部会全員で検討
- ・区民会議フォーラムの企画内容を検討
- ・魅力探訪部会が最終的にまとめる提案について話し合った



寄ってこ!ガイド 公開記念特別企画

## 魅力探訪部会の取り組みをWEBで公開しています

「みやまえ魅力スポット・寄ってこ!ガイド」と「みやまえハテナノタネ・自由研究のMe!」は、宮前区ホームページで公開しています。

### ■みやまえ魅力スポット・寄ってこ!ガイド

それぞれの資源の最寄りバス停から、目的地までの徒歩ルートを写真つきで解説しているページです。

①馬絹古墳公園 ②橘樹官衙遺跡群 ③とんもり谷戸 ④東高根森林公園 ⑤まちの樹50選 ⑥つつじの名所



### ■みやまえハテナノタネ・自由研究のMe!

取り組みの紹介と印刷用PDFデータを見ることができます。印刷も可能です。



※各ページはPC/スマートフォン専用です。従来型携帯電話でのアクセスはできません。

## 今後の区民会議への継続的な課題

第5期宮前区区民会議では、各専門部会で審議を進める前に、「準備部会」を開催し、委員それぞれが考える「地域課題」を出しあい、議論を進めてきました。3回の準備部会の過程で、地域課題を次の5つに分類しました。ここでもう一度、その5つの分類をおさらいします。

### ①高齢者や障害者の孤立防止と生きがいづくり

高齢者の認知症予防、障がい者の引きこもり、孤立防止には、生きがいを持って暮らしていけるまちづくりが必要です。見守り促進や公園体操などのこれまでの取り組みを活かしながら、子ども、働く世代も、みんながかかわっていける、生きがいづくりが大切です。

### ②子育て世代のつながりと、子どもがのびのび遊ぶ環境づくり

孤立への対策は高齢者だけでの問題ではありません。転入したばかりの世帯など、子育てに悩む人たちが、地域とつながりをもち、地域ぐるみで子育てにかかわっていく環境づくりが必要です。

### ③地域コミュニティの活性化と憩いの場づくり

さまざまな環境の人びと・世代がしぜんに交流できる環境と場所を整えることで、働く世代など地域へのかかわりが希薄なひとにも気軽に地域に参加できます。

### ④歴史を大切にし、その魅力を広く伝える

都市化が進む宮前区ですが、古き良きものは残されています。これを地域の人たちが大切にし、愛していくことができれば、ずっと暮らし続けていくことができるまちになります。

### ⑤次世代のために、まちづくりを考える

宮前区に生まれた子どもが、地域で育ち、働き、家庭をもち、地域を支える。これからますます少子高齢化が進行する中で、活力のあるまちを持続していく方法を考えることが大切です。若者が住みやすい住環境の整備、交通問題の改善など多くの課題に対して、長期的に検討して専門部会の立ち上げも考えていく必要があります。

委員による議論の結果、おもに①をもとにした「誰もがくらしやすいまちをめざす部会」、④をもとにした「みやまえ魅力探訪部会」を発足し、今回提出する提案となりましたが、詳細の議論に至らなかったテーマについても、委員としては解決に向けた思いを持ち続けています。

そのためには、2年という任期中での結論は難しいこともあります。わたしたち第5期宮前区区民会議は、さらなる活発な議論のために、**第6期以降においては、長期にわたる継続的な議論が必要なテーマを扱う専門部会の設立の検討を期待しています。**また、行政への提案として、**現状の2年の任期の延長や、再任は1回までとする規定を改正**することを望みます。





みやまえハテナノタネイメージキャラクター  
宮前兄妹探検隊！

## 第5期宮前区区民会議 提案書

平成28年3月9日発行

**発行者** 第5期宮前区区民会議  
**編集** 宮前区区民会議事務局（宮前区役所企画課）  
**所在地** 川崎市宮前区宮前平2-20-5  
**でんわ** 044-856-3136  
**FAX** 044-856-3119  
**メール** 69kikaku@city.kawasaki.jp